ボランティア情報あきた

No.47
発行：平成 26 年 6 月 10 日

秋田県ボランティア団体連絡協議会　会長　菅原雄一郎
秋田市旭北栄町１番５号　TEL　018-864-2799

ボランティア活動の振り返りと歴史的節目

秋田県ボランティア団体連絡協議会　会長　菅原雄一郎

拙い頭で少し振り返りますと、昭和28年に昭和の大合併があり、その当時の社会では、仕事の問題、子育ての問題等が大変だったと思います。当時、小学校で地域ごとの子供会があり、自分も参加しました。

それから5年後の昭和33年（多分）、全国でボランティア活動の講習が始まったと思います。そして昭和36年12月には「秋田県青年社会事業ボランティア連絡協議会」が発足し、高校生で創った「秋田人形劇研究会サンダラボッチ（昭和36年8月5日発足）」も会員として出席しました。当時のボランティア活動は、主として子供会の為の活動でした。

それは、現在の「秋田県ボランティア団体連絡協議会」の始まりでした。

昭和58年5月26日11：59「日本海中部地震（秋田県）」。平成7年1月17日5：46、「阪神・淡路大震災」。阪神地方は大水害が多く、大震災が発生するとは思いませんでした。又、全国の人々も、その犠牲の大きさに大変な驚きでした。

全国から多くのボランティアが集まり、活動をしました。この時の活動が、大変大きな成果を上げ、NPOという言葉に繋がったのです。その話し合いが秋田で行われた、「第27回全国ボランティア研究集会」のフォーラム「ボランティア活動と法制度①（基礎講座：NPO支援法の論議の前に）、②（市民活動の制度、その意味と課題と今後）」だったのです。勿論、その数年後、特定非営利活動促進法が制定され、NPO法人の登場と相成った訳です。

そして、平成23年3月11日14：46、東日本大震災が発生し、大変多くの犠牲を出しました。以降3年間、多くのボランティアも被災者の為に普通以上の活動をしたと思いますが、未だ復興には至って居りませんし、必死で活動している人々の気持ちを、逆なでする様な事件も起こっております。

そういった意味で平成25年度は、様々な意見が出され、大いに考えさせられる一年でした。

ここ数年、「県V団連」では「ボランティア情報あきた」の発行が出来ませんでした。

しかし昨年度事業として、秋田市V連の協力を得、秋田県の考え方や被災現地から秋田に来られている人の考え方を知ってもらう為の資料を配布させて頂きましたし、この会報にも、3市町村の事業（県V団連による市町村V支援金事業）の一部を掲載しております。

本年度も市町村V支援事業の他に、県V団連と市町村V連の協力事業として「伝える…そして、つなげる」を予定しております。内容としては、後ページに記載されておりますが、ワークショップとグループワークです。

本来であれば、どの様な事業（研修や講習）をやれば良いのかを会員団体から提示して頂き、実施すべきでしょう。また、「秋田県ボランティア・市民活動研究集会」は、県V団連・単独事業と思われがちですが、過去において市町村V連協との共催で行われた例が多いのです。

もう一度、県V団連の会員各位にお考え頂き、ご意見を賜りますれば大変有難く存じます。

最近、ボランティア・市民（NPO）活動も随分と様変わりして来ました。

敢えて、ご承知の事を記載しますが「手段が目的になってはいけない」と思いますし、「地域社会へのウォッチ」「行政へのチェック」が大切です。

ご一緒に、「誰のためにボランティア活動をしているのか」を考えてみませんか…！

「その時あなたは」災害シミュレーション報告書

開催期日 ■ 平成25年3月10日（日）午後1時
開催会場 ■ 由利本荘市鶴舞会館　講堂

東日本大震災から2年を迎え、市民の備え、行政の防災意識などを検証することを目的に、災害をシミュレーションしたワークショップを開催。一般参加66名を含む、87名での開催となった。

1テーブル6名～10名、計6つのグループに分かれ、各々違った災害が発生した場面を想定し、一般市民が互いに助けあい、救援の手が入るまでの間どのように対処できるか考えるゲーム感覚のシミュレーションを60分間実施。グループでどのような対処ができたかを報告し、他のグループで気づいたこと、気づけなかったことを参加者全員で検証し合った。

大槌町支援のための
物品販売の模様

グループから出された意見

- リーダーを選ぶ場合は主に１人のリーダーの指示で行動をする。
- 担当係を決める（物資調達係、状況確認係、安否確認係など）
- 単独で行動せずにグループに分かれて数人で行動する。
- 専門知識のある人をリーダーにする。
- 二次災害をおこさないようにする。
- 正しい情報を掴み報告する。
- 行方不明者の情報は名前を掲示し安否を確認する。
- 避難所で使える車両、機材、近隣住民などから最大限物資を調達する。

■考察・アンケートから

秋田県立大学　准教授　嶋崎真仁

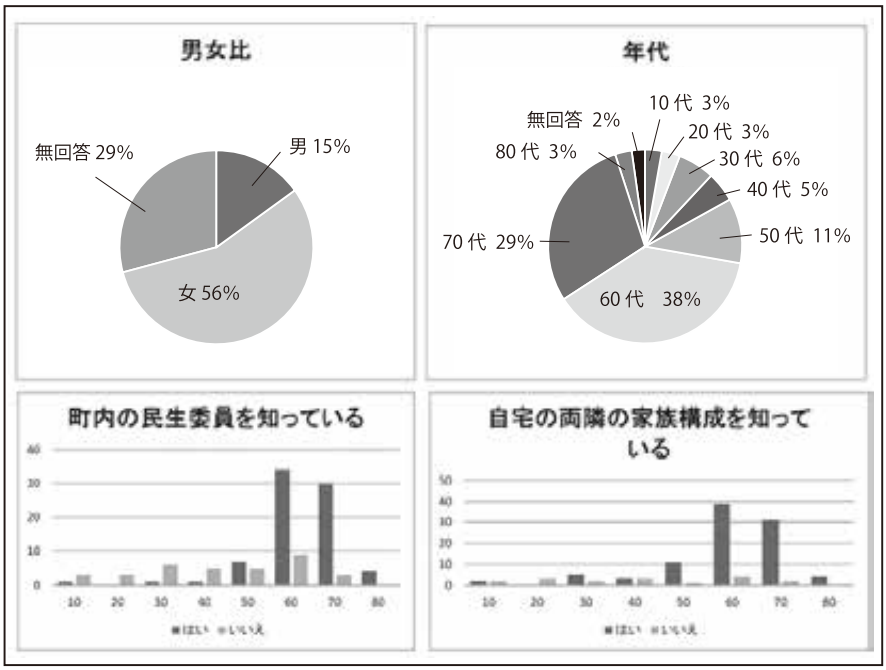
日頃防災に関心のある層からの回答が多いため、一般社会から見ると偏りがある。
日頃の備えとして、周辺の家族を知る、懐中電灯など非難必需品の準備、家族との連絡が高かった一方、ボランティアや社会福祉協議会への参加や認知が低い。ボランティアの組織化や災害時の動き方などについて、一般市民に広報する必要あり。町内の民生委員を知っている、あるいは自宅の両隣の家族構成を知っているという質問に対し、60 歳台以上の方の関心の高さが伺えた。その他、相関関係の見出された質問には、避難所の確認を家族と一緒にやっていること、救援連絡先と災害本部の連絡先、単独避難出来ない人を知っている人が社会福祉協議会を知っていることがある。

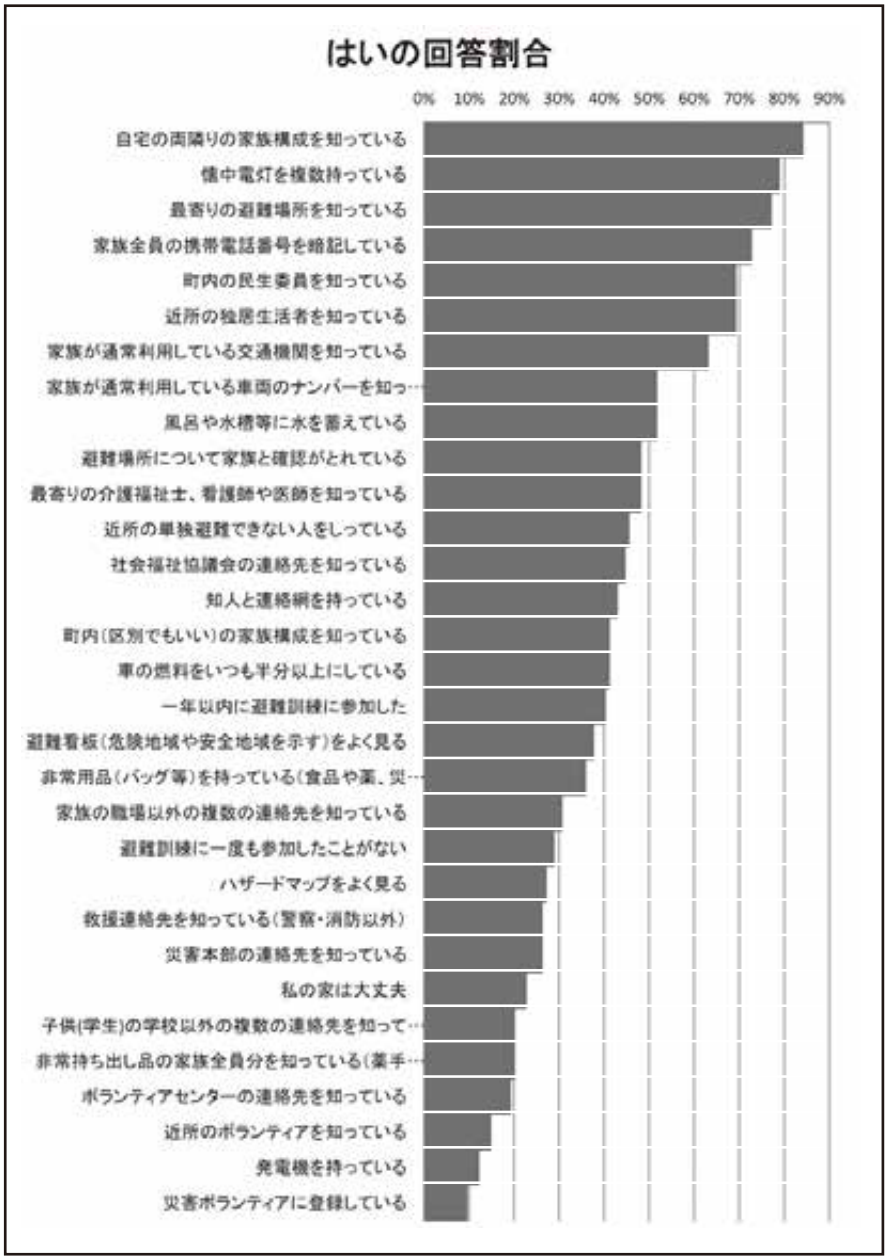
■報告・まとめ

本荘ボランティア団体連絡協議会
会長 あべ十全

誰かがやってくれるだろう、行政の指示があるまで待ちましょう、というように、受身の姿勢では目の前で助けられる命を救うことができない。自分たちが置かれた条件で協力し合い、いかに動くかが重要であり、そのためには共に助け合い、譲り合う姿勢が不可欠である。今後地域で日ごろから顔を合わせてお互いに助け合う機会を作り、関わりを継続していくことで、実際に災害が起こった場面でも被害を最小限にするための力となるだろう。今回ご協力いただいた各機関からも当日参加をいただき、大槌町支援のための物品販売は売り切れの品物も出るほど盛況であった。今後も検証を重ね一つでも救える命のためにボランティアの絆を結びたい。

その時あなたは！　アンケート集計結果





潟上市・秋田県合同ボランティア研修開催

開催期日 ■ 平成24年10月24日
開催会場 ■ 潟上市立羽城中学校

東日本大震災後、新聞、テレビ等で「ボランティア」とよく聞きます。しかしその反面、「ボランティア活動とは何なのか…」と考える方も増えました。また、ボランティアの歴史、意味を考えたいとの声があり、平成24年10月24日にライフデザイナー菅原雄一郎氏を講師として招き、「潟上市・秋田県合同ボランティア研修」を潟上市立羽城中学校にて行いました。

同研修では「ボランティアとは…」と題して菅原氏よりご講演を賜りました。初めに、菅原氏よりボランティア活動を必要とする時代背景の要因の一つを「一人では生きていることが不安になるための共依存」にあるとお話をいただきました。その後、Customer-Satisfaction（カスタマー・サティスファクション）テストを参加者の中から行ってもらいました。このテストの目的は、ボランティア活動のためには、ネットワーキングが必要で、生きたネットワーキングには「相手の立場からものを見る・相手の気持ちになって考える」ことが大切であるとの説明をしていただきました。続いて、菅原氏より「ボランティア活動は誰のために行うのか？」との問いに、参加者より「自分のために行う」との回答があり、菅原氏よりボランティア活動を行って得られる見返り（充実感や達成感、社会貢献による満足感等）は、豊かな人生を作るためのスパイスであると補足していただきました。また、「ボランティア活動は、問題が起った時、その問題を解決しようとする人間の生き方でもあり、同時に人間が生きるための、全ての『環境』をつくる作業でもあり、文化を創っていく活動です。その循環を繰り返して、大きくしていくことで、『命』への環境づくりとなります。」とのお話がありました。

続いて、第二部で菅原雄一郎氏、潟上市内でボランティア活動を行っている安田静雄氏、佐藤悦子氏の3名で鼎談（？）を行いました。鼎談は、事務局の手順違いにより笑いを誘う一場面もありました。鼎談の最中には、Sensitivity-Training（センシティビティー・トレーニング）を参加者に体験していただきました。このトレーニングは、アイマスクをした人が車いすで介助し、車いすに乗っている人が進行方向を指示する内容になっています。目的は、指示を出す人が「自分の思っていることを伝えることの難しさや、歯がゆさ」を体験し、また介助する人も同じように感じて意思伝達のための疑似体験をしてもらうことです。このトレーニングに参加した人は「何をどのようにするのか？」「誰にどのように伝えるのか？」を疑似体験しながら、「相手を思いやる心」を感じ取っていたようでした。

ボランティア活動も一方通行だと、押しかけボランティアになってしまいます。相手を思いやるために自分が存在し、良き共依存関係を構築できると、故・牟田悌三氏の詩にあるように「お互い様」の精神が芽生え、日本にあった本当のボランティア活動につながるような気がしました。

（参考文献：秋田ボランティア協会「命」への環境づくりを…！、故・牟田悌三氏）

第8回 大仙市ボランティアまつり

開催期日 ■ 平成25年11月6日
開催会場 ■ 太田文化プラザ（大仙市太田町）

安心のまち、ぬくもりあるまち、協働のまちづくりに向かって、さまざまなボランティア活動への理解を深め、大仙市のボランティアの輪を広げることを目的に開催されている「大仙市ボランティアまつり」が今年で8回目を迎えた。

歓迎パフォーマンスの「東今泉八幡太鼓（大信田悟代表）」演奏後、ボランティア連絡協議会佐藤多喜子会長が「日々の活動を通じて『元気の種』を蒔いていきましょう」と挨拶した。

その後、大仙市ボランティアソング「そのひとこと」を全員で合唱。ボランティアステージでは、約20のボランティア団体による車椅子ダンスやアコーディオン演奏や合唱など、さまざまな芸能発表がステージで繰り広げられた。

また、東日本大震災の被災地を120回も訪問しているマジシャンのトリックマスターソラさんによるマジックショーも行われた。

ソラさんは「マジックで元気づくりができれば」と、福島、宮城、岩手の3県を回っている。当日は「リング結び」や「スプーン曲げ」などを披露。途中、ステージを降りて観客の目の前でマジックをする場面もあり、およそ260名の来場者を楽しませていた。

その他、仙北地域かごあみボランティア「ほっとはあとくらぶ」やふれあいの郷「まつくら」などによる販売コーナーも人気を呼んでいた。

ボランティア情報 あきた
インフォメーション

「県 V 団連」とワークショップを共催する市町村協議会を募集します！

ノンバーバル／ボディランゲージに関する理解を深めるワークショップを開催してみませんか？国内外で活躍している演出家や漫談家による手話や身体表現を使ったワークショップを共催する団体を募集します。今回の募集は主に県北地区を対象とします。

《コミュニケーション　ワークショップ》

1）コミュニケーションとは何か（45 分）
　・ノンバーバル・ワークショップの体験
2）グループワーク（90 分）
　・創手話
　（1）ノンバーバル / ボディランゲージ / 手話
　（2）身体表現

【問い合わせ】　秋田県ボランティアセンター内「県 V 団連」担当
TEL：018―864―2799

■講師 profile

庄崎 隆志　office 風の器主宰・俳優・演出家。

19 歳で裏方のアルバイトのつもりで入ったプロフェッショナル劇団「デフ・パペットシアター・ひとみ」で思いがけず役を貰い、俳優に。演出・脚本も手がける。国内で 2000 回以上、また海外 13 カ国で公演の経験を持つ。2005 年の退団後は公演プロデュース、また実践女子短大をはじめ様々な教育の場や国立特別支援教育総合研究所等でワークショップの講師としても活躍。

メイミ　漫談家・介護福祉士・NPO法人笑顔工場理事長。港区登録手話通訳者。

舞台や各種イベント等、様々な場面で漫談家・司会者等の活動をする傍ら、都内のデイサービスセンターで介護福祉士として高齢者介護に携わる。特定非営利活動法人笑顔工場を設立し、現在は十数名の若手芸人の参加者を連れて、関東を中心に福祉施設でのお笑いライブを展開。これからの長寿社会に向け、「笑って長生き」という考え方を広める為の活動を展開している。

編集後記

４年前、事務局担当者の発癌。そして、２年前の病死という事態の中で、事務局費も無く、県社協に協力してもらっての４年間でした。今後は、体制を変えての新たな出発となろうかと思います。どうぞ皆様、大いに意見を出し合い、発展に繋げましょう…！

今年の全国ボランティアフェスティバルは岐阜で開催

全国のボランティア、市民活動者が一堂に会する「全国ボランティアフェスティバル」が 9 月 27 日（土）・28 日（日）の日程で、岐阜市にて開催される。

【スケジュール】
1 日目 27 日 (土)
会場：長良川国際会議場、都ホテル
12:30~13:00　おもてなし演奏
13:00~13:40　開会式
13:45~14:45　記念講演
14:50~16:20　清流トーク・セッション第 1 部
16:30~17:10　一文字造語表彰式
17:40~19:10　交流会

2 日目　28 日 (日)
会場：長良川国際会議場、都ホテル、
中部学院大学、岐阜聖徳学園大学　ほか
9:00~12:00　分科会
　(全大会会場への移動)
13:30~13:40　清流トーク・セッション第 2 部
15:20~16:00　引き継ぎ式・閉会式

【問い合わせ】
〒500-8385　岐阜市下奈良 2 丁目 2 番 1 号
社会福祉法人　岐阜県社会福祉協議会
第 23 回全国ボランティアフェスティバルぎふ実行委員会事務局
TEL：058-274-2940　FAX：058-274-2945
HP アドレス：
http://www.winc.or.jp/zvf/index.html

障害体験記録を募集

障害のある人と支える人の体験記録を募集しています。「障害のあるご本人の部門」と「障害のある人とともに歩んでいる人の部門」の 2 部門で募集、文章による記録を募集。

募集期間：
26 年 6 月 1 日（日）～7 月 31 日（木）当日消印有効

【問い合わせ】
社会福祉法人 NHK 厚生文化事業団
TEL　03（3476）5955
FAX　03（3476）5956
ホームページ：http：//www.npwo.or.jp